

科学委員会について

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

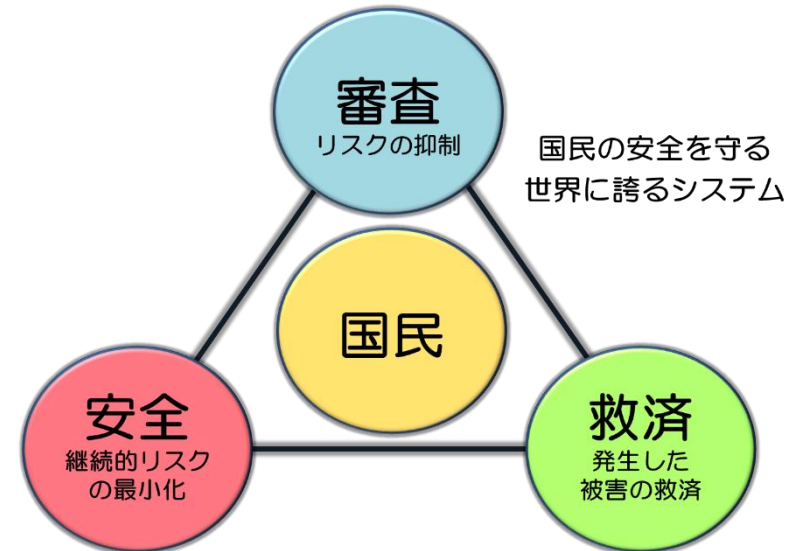


PMDAは、
医薬品の副作用や生物由来製品を介した
感染等による健康被害に対して、迅速な
救済を図り(健康被害救済)、

医薬品・医療機器・再生医療等製品など
の品質、有効性及び安全性について、治
験前から承認までを一貫した体制で指導・
審査し(承認審査)、

市販後における安全性に関する情報の収
集、分析、提供を行うこと(安全対策)
を通じて、国民保健の向上に貢献すること
を目的としている独立行政法人。

PMDAのセイフティ・トライアングル



PMDAの理念(2008年9月)

わたしたちは、以下の行動理念のもと、医薬品、医療機器等の審査及び安全対策、並びに健康被害救済の三業務を公正に遂行し、国民の健康・安全の向上に積極的に貢献します。

- ① 国民の命と健康を守るという絶対的な使命感に基づき、医療の進歩を目指して、判断の遅滞なく、高い透明性の下で業務を遂行します。
- ① より有効で、より安全な医薬品・医療機器をより早く医療現場に届けることにより、患者にとっての希望の架け橋となるよう努めます。
- ① 最新の専門知識と叡智をもった人材を育みながら、その力を結集して、有効性、安全性について科学的視点での的確な判断を行います。
- ① 国際調和を推進し、積極的に世界に向かって期待される役割を果たします。
- ① 過去の多くの教訓を生かし、社会に信頼される事業運営を行います。

なぜ科学委員会なのか

PMDAを取り巻く課題

- ① 再生医療等先端科学技術分野(抗体医薬、コンパニオン診断薬、人工心臓、再生医療、ガンワクチンetc)における研究内容を理解した審査・相談業務が求められている。
- ② より迅速に医療現場に届けるには、申請前の非臨床、臨床試験、あるいはシーズ段階からの先端科学技術に対する的確な相談・助言が求められている。
- ③ 加速する技術革新をキャッチアップし、最先端の技術の実用化に貢献できる審査員の継続的な育成にはアカデミアとの密接な連携が必要。



科学委員会の設置(平成24年5月)

PMDA第三期中期計画(平成26年3月)(抜粋)

医学・歯学・薬学・工学等の外部専門家から構成される「科学委員会」を積極的に活用し、革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品の評価方法に関して、大学・研究機関等や医療現場との連携・コミュニケーションを強化するとともに、薬事戦略相談を含め先端科学技術応用製品へのよりの確な対応を図る。

科学委員会とは

- 今後の医療イノベーションの推進も踏まえ、レギュラトリーサイエンスの積極的推進とともに、アカデミアや医療現場との連携・コミュニケーションを強化し、先端科学技術応用製品へのよりの確な対応を図ることを目的とし、医薬品・医療機器審査等業務の**科学的側面**に関する事項を審議する機関として、平成24年5月14日に設置されたPMDAの業務から独立した機関。
- 具体的役割として、薬事行政上の「審査(承認)基準」や「審査(開発)ガイドライン」ではなく、最先端科学技術等に係る内容を中心に「各審査項目の科学的評価にあたっての留意事項」の取り纏め等が期待される。個別品目の承認審査には関わらない。
- 委員は、医歯薬工などの外部専門家から構成されている。
- 議論すべきトピックごとに、科学委員会に専門部会が置かれる。
- 議事録は原則公開。委員名簿は 専門部会委員も含め公開。科学委員会、専門部会とも個別事例を基に議論することがありうるため、会議は非公開。ただし、議事録は原則公開。
- これまでに11報の取りまとめ報告書が作成されている。

科学委員会の親委員会、専門部会の役割

親委員会の役割

- ① 議論すべきテーマを決定し、そのトピック毎に専門部会を設置する。
- ② 専門部会委員の選定を行う。
- ③ 専門部会において作成された報告書(案)等について確認する。

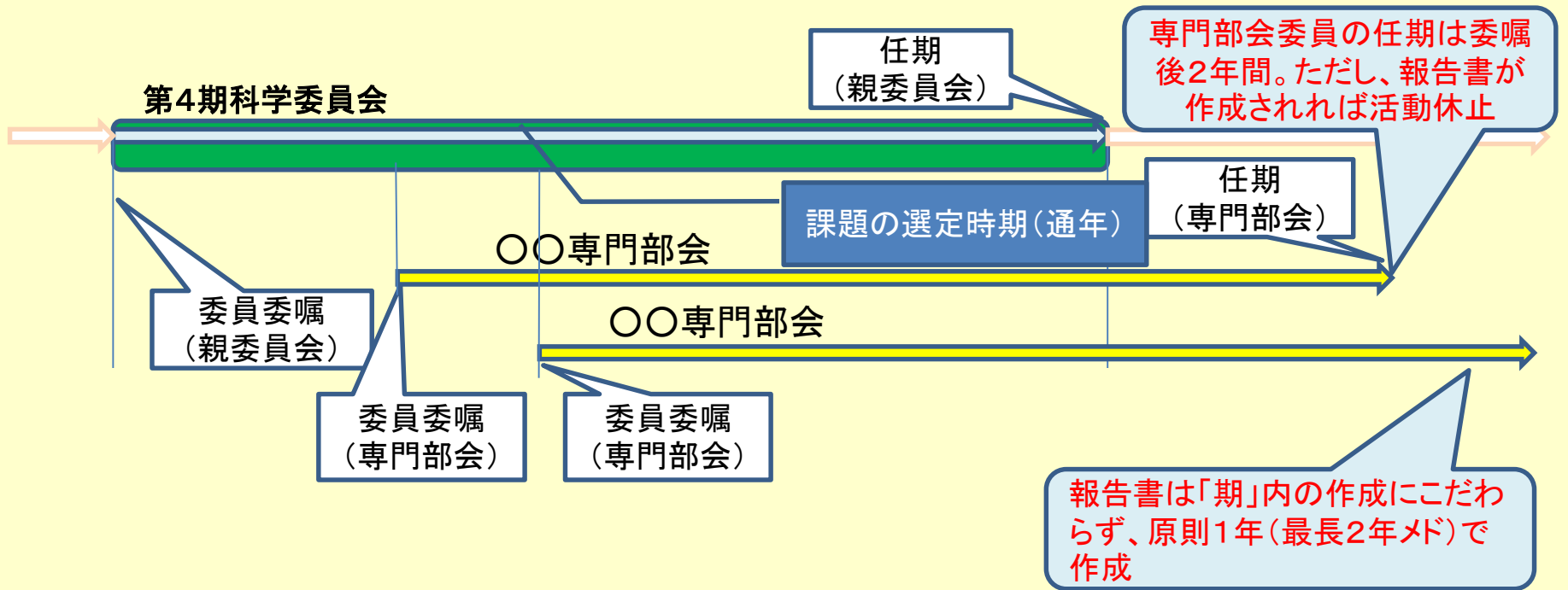
専門部会の役割

- ① 親委員会で決定されたトピックについて議論を行い、報告書(案)をまとめる。

科学委員会の開催予定等

科学委員会の親委員会は2ヶ月に一回程度開催予定
4月より第4期(2年間)がスタートする

第4期科学委員会からの取扱い



第4期科学委員会委員名簿（平成30年4月～）

	井関 祥子	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 分子発生学分野 教授
◎	井上 純一郎	東京大学 医科学研究所 分子発癌分野 教授
	今泉 祐治	名古屋市立大学 理事・副学長・教授
	岩田 敏	国立がん研究センター中央病院 感染症部長
	上田 龍三	愛知医科大学 医学部 教授
○	遠藤 玉夫	東京都健康長寿医療センター 所長代理
	大江 和彦	東京大学大学院 医学系研究科 教授
	小澤 敬也	自治医科大学 客員教授
	小澤 正吾	岩手医科大学 薬学部 教授
	門田 淳一	大分大学医学部附属病院 病院長
	許 俊鋭	東京都健康長寿医療センター センター長
	楠原 洋之	東京大学大学院 薬学系研究科 教授
	後藤 俊男	理化学研究所 創薬・医療技術基盤プログラム プログラムディレクター
	佐谷 秀行	慶應義塾大学 医学部附属先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門 教授
	高倉 喜信	京都大学大学院 薬学研究科 教授
	鎮西 清行	産業技術総合研究所 健康工学研究部門 副研究部門長
	西川 秋佳	国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
	平家 俊男	兵庫県立尼崎総合医療センター 院長
	松井 茂之	名古屋大学大学院 医学系研究科 教授
	光石 衛	東京大学 大学執行役・副学長・教授
	門田 守人	地方独立行政法人堺市立病院機構 理事長
	山口 照英	日本薬科大学 薬学部 客員教授

◎ 委員長

○ 副委員長

第4期科学委員会のテーマ

1 薬剤耐性菌感染症治療薬の臨床評価

発生が稀な薬剤耐性菌による感染症の治療薬の有効性及び安全性に関する開発段階から製造販売後までの情報収集とその評価方法について留意点等を取りまとめ、今後の承認審査や治験相談に活用する。

2 ゲノム編集技術を応用した医薬品等のリスク評価の考え方

ゲノム編集技術応用した医薬品等が抱えるリスクとして考えられる、目的としないゲノムDNA部位に変異が入る可能性（オフターゲット）、全ての細胞で目的の変異が導入されない事象（モザイク）など、現在考えら得れるリスクを俯瞰し、それらをどのように評価できるのか、その考え方を取りまとめ、今後の承認審査や治験相談に活用する。

議論の取りまとめ報告書 | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 - Internet Explorer

https://www.pmda.go.jp/rs-s

pmda 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構
Pharmaceuticals and Medical Devices Agency

PMDAについて

安全性情報
回収情報 等

添付
文書等
検索

医療用医薬品

一般用・要指導医薬品

訪問者別ナビゲーション
おすすめのコンテンツをご案内します

製品種類別ナビへ切替

一般の方向け

医療従事者

ホーム

審査関連業務

安全対策業務

健康

このページをよくみるページ

ホーム > レギュラトリーサイエンス・基準作成調査・日本薬局方 > 科学委員会運営業務 > 議論の取りまとめ報告書

レギュラトリーサイエンス・基準作成調査・日本薬局方

- レギュラトリーサイエンス推進業務
- 科学委員会運営業務
 - 科学委員会運営業務の概要
 - 科学委員会
 - 議論の取りまとめ報告書**
- 科学委員会専門部会(第3期)
- 科学委員会専門部会(第2期)

https://www.pmda.go.jp/files/000222718.pdf - Internet Explorer

https://www.pmda.go.jp/files/

平成 30 年 2 月 1 日

独立行政法人医薬品医療機器総合機構
理事長 近藤達也 殿

科学委員会
委員長 永田恭介

科学委員会では、今般、下記について科学的見地からの議論をまとめました。
独立行政法人医薬品医療機器総合機構における通常業務にご活用ください。

記

アカデミアと企業との連携による創業を促進するための課題と提言 2017
一日進月歩の科学の中で—
(医薬品開発専門部会)

以上

議論の取りまとめ報告書

第3期(平成28年4月～現在)に公開された報告書

- アカデミアと企業との連携による創業を促進するための課題と提言2017— 日進月歩の科学の中で—

第2期(平成26年4月～平成28年3月)に公開された報告書

- プラセボ対照試験の現状と考え方
- 抗悪性腫瘍薬開発における非臨床試験の活用に関する提言
- 整形外科インプラントの強度評価への数値解析使用に関する報告書
- 医療機器の小児への適応評価のあり方に関する議論のまとめ
- 再生医療等製品の品質確保における基本の考え方に関する提言

【これまでのPMDA科学委員会】の成果

第1期（平成24年5月～平成26年3月）

- ・医薬品の開発・承認審査に関わる個別化医療の現状評価に関する議論の取りまとめ
- ・抗がん剤の非臨床薬理試験に関する取りまとめ
- ・iPS細胞等をもとに製造される細胞組織加工製品の造腫瘍性に関する議論のまとめ

第2期（平成26年4月～平成28年3月）

- ・プラセボ対照試験の現状と考え方
- ・抗悪性腫瘍薬開発における非臨床試験の活用に関する提言（‘Cancer Science’誌に投稿／採択）
- ・整形外科インプラントの強度評価への数値解析使用に関する報告書
- ・医療機器の小児への適応評価のあり方に関する議論のまとめ
- ・再生医療等製品の品質確保における基本の考え方に関する提言



第3期（平成28年4月～平成30年3月）

- ・アカデミアと企業との連携による創薬を促進するための課題と提言 2017
ー日進月歩の科学の中でー
- ・希少がんの臨床開発を促進するための課題と提言 2017（‘Cancer Science’誌に投稿／採択）
ーアカデミア及びレギュラトリーサイエンスの視点からー
- ・AIを活用した医療診断システム・医療機器等に関する課題と提言 2017
（‘Advanced Biomedical Engineering’誌に投稿／採択）